

だれもが住みよい福祉のまちづくりを目指して

～モデル地区推進部会活動報告書～

〈平成18年度～平成22年度〉



平成23年12月

さいたま市福祉のまちづくり推進協議会

モデル地区推進部会

<目 次>

I. 福祉のまちづくりモデル地区推進事業	1
II. 各小学校での具体的活動内容	3
1. 平成18年度 高砂小での取組について	3
2. 平成19年度 仲本小での取組について	4
3. 平成20年度 大宮小での取組について	6
4. 平成21年度 桜木小での取組について	9
III. 参加者の声から	12
IV. 桜木小6年生へのアンケート結果と考察（平成22年度調査）	22
V. 第1期モデル地区推進事業の評価と今後の課題	26
VI. 用語解説	27

はじめに

「だれもが住みよい福祉のまちづくりを目指して～モデル地区推進部会活動報告書～」(以下、「活動報告書」と呼びます)ができあがりました。

このたびの活動報告書の作成にあたっては、約5年間にわたる多くの方々の熱心な議論の積み重ねがあり、市民の皆様をはじめ、学校関係者の方々、障害者団体の方々との「まち歩き」や意見交換、アンケート調査などを通じて、広くご意見・ご提案をいただくことができました。誠にありがとうございました。

モデル地区推進部会では、平成18年度に策定された「福祉のまちづくり推進指針」に基づき、ハードとソフトが一体となった総合的な福祉のまちづくり活動を具体的に展開するモデル地区事業を推進してまいりました。

この活動報告書は、交通バリアフリー基本構想の重点整備地区に指定されている浦和駅周辺地区・北浦和駅周辺地区・大宮駅周辺地区における、これまでのモデル地区推進部会の活動内容をまとめることを通じて、その成果を将来の福祉のまちづくりに生かすことのできる充実した内容になったと思います。

今、さいたま市内の駅のホームやコンコースには、エレベーターやエスカレーターの設置が進んでいます。まちにはノンステップ化した路線バスが多く見られるようになり、歩道の段差解消や視覚障害者向けの誘導ブロックの設置も進んでいます。

しかしながら、福祉のまちづくりには、こうしたハードの整備だけでなく、すべての人が必要な情報を多様な手段で入手し発信できる情報のバリアフリー化など、ソフト面での取組みも不可欠です。世の中に存在しているさまざまなバリアを取り払い、高齢者や障害者をはじめ、子ども、妊娠中の方など、すべての方が不便なく暮らすことのできるまちづくりを推進していくことが必要です。

平成22年度に「福祉のまちづくり推進指針」が改定され、福祉のまちづくりのさらなる浸透と広がりを図るために、重点整備地区だけでなく、特色や課題のみられる地区などについても、モデル地区として選定することとなりました。

今後は、この新しい推進指針に基づくモデル地区推進事業を展開していくこととなりますが、この活動報告書を読まれた市民や事業者の皆様が、誰もが住み慣れた地域で安心・安全に暮らし続けられる「さいたま市」をつくるために、自分の場で、できる範囲で、積極的・主体的に参加されることを期待しています。

さいたま市福祉のまちづくり推進協議会
モデル地区推進部会 会長 三浦 匡史

I. 福祉のまちづくりモデル地区推進事業

1. 目的

- この事業は、平成16年3月に制定した「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」に掲げる目的である「だれもが心豊かに暮らすことのできるユニバーサルデザインの都市の実現」のため、総合的かつ計画的に推進するための基本となる「福祉のまちづくり推進指針」を策定し、目的を達成するための一つの方策として、モデル地区を設定し、ハードとソフトが一体となった総合的な福祉のまちづくり活動を行うものです。

2. 対象地区

- 平成18年度から平成21年度までについては、本市の交通バリアフリー基本構想の重点整備地区に指定されている浦和駅周辺地区・北浦和駅周辺地区・大宮駅周辺地区での活動を優先的に取り組んできました。

- 浦和駅西口地区：高砂小（平成18年度）
- 浦和駅東口地区：仲本小（平成19年度）
- 大宮駅東口地区：大宮小（平成20年度）
- 大宮駅西口地区：桜木小（平成21年度）

なお、平成22年度に福祉のまちづくり推進指針を改訂し、平成22年度から平成26年度（第2期）の期間については、モデル地区事業の対象を、交通バリアフリー基本構想にとらわれることなく柔軟に対応することとしました。

3. 活動イメージ

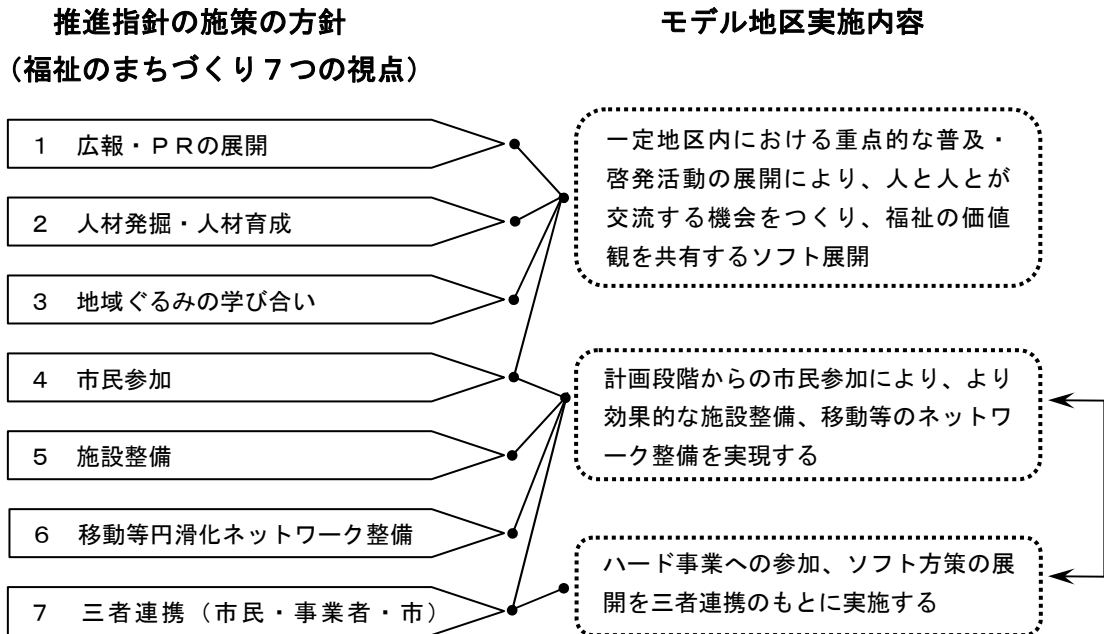
- 「広報・PR」、「人材の育成」、「学び合い」、「施設整備への市民参加」などをキーワードに、児童や保護者、地域の方々とともに、バリアフリー体験学習、まち歩きによる点検、学び合いなどを行います。
なお、小学校でのバリアフリー体験学習は、各学校のスケジュールやカリキュラム等と連携して行っています。

4. 組織

- 「モデル地区推進部会」は、「さいたま市福祉のまちづくり推進協議会」の中に設置された部会で、NPO、福祉関係団体、交通事業者、自治会関係、教育関係、行政職員によって組織され、モデル地区事業を推進しています。

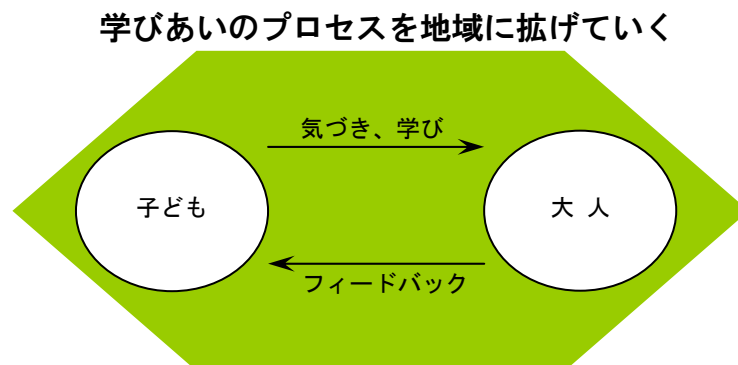
5 モデル地区の事業展開

○地区内の学校と協力した福祉教育の展開・調査やマップづくり・イベントと連携したPR・施設整備への意見といった活動を、次の「福祉のまちづくり7つの視点」に基づいて進めています。



6 学び合いのイメージ

○子どもたちに福祉のまちづくりを伝えて気づきを促し、その豊かな感性から生まれるアイデアを大人たちに伝え、再び大人たちからのフィードバックを受け取るという学び合いのプロセスを実現し、一定期間継続することで、地域に広がっていく活動を想定しています。



Ⅱ. 各小学校での具体的活動内容

モデル地区事業は、小学校の総合的な学習の時間を利用して、モデル地区推進部会委員をはじめ、障害のある方や市福祉関係団体等の協力を得て、福祉のまちづくりをともに学びあえる機会をつくり、地域に暮らす父兄や住民等に参加を呼びかけ、実施しています。

各学校では、障害のある方や高齢者、妊産婦経験者等の方々からの聞き取り学習や、アイマスクや車いすを使用しての各種体験学習、まち歩き学習、学習発表会など多様で総合的な学び合いのなかで、「心のバリアフリー」に取り組んでいます。

1. 平成18年度 高砂小での取組について

高砂小学校では、4年生児童（145名）を対象に実施しました。

(1) 講演会・擬似体験（10/16・17）

まち歩きの前に、障害のある方から話を伺ったり、学校内等で擬似体験を行います。

◆期待できる効果◆

擬似体験により暮らしの中で何がバリアなのか知ることができる。

自分と異なる感覚や暮らしの方法があることを講演を通じて理解することができる。



マットでバリアを作り、車いすの操作方法を学ぶ様子

(2) まち歩き・交流（10/30・31）

グループに分かれて、子ども、地域住民、障害のある方、市の職員と一緒に歩き、道路や商店街等について、何に不便を感じるのか、どんなところがバリアフリーになっているのかチェックする。

◆期待できる効果◆

実際にまちを歩くことで、自分たちのまちのバリアやバリアフリーについて理解できる。

一人ひとりの能力がハンデの原因ではなく、環境（バリア）がハンデを生むことに気付くことができる。



まち歩きで、視覚障害者の方の介助を行う様子

(3) 発表・提案 (11/15・16・12/4)

子どもたちがまち歩きを通じて気がついたことやまちづくりへの提案などを話し合い、発表する。

◆期待できる効果◆

子どもたちのまちづくりに対する真剣な取り組みや気づきを多くの方に伝えることにより、大人の意識も高まっていく。

子どもたちの意外な視点が行政の参考になる。地域の方々が加わることにより、地域を見直すことができる。



まとめ作業の様子



発表会の様子

2. 平成19年度 仲本小での取組について

仲本小学校では、4年生児童（80名）を対象に実施しました。

(1) 取組の概要

【参加者】

モデル地区推進部会の他、肢体・視覚・聴覚の各障害者団体から、選出していただき、市関係課職員、社会福祉協議会、社会福祉事業団が参加しました。特に地域関係者（自治会、民生委員、育成会、保護者）の方々にも参加を促し、事前まち歩き、まち歩き、発表会に多数参加していただきました。

(2) 疑似体験 (7/18・9/11)

日程		内 容
1 学期	授業	<p><知る></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バリアフリーを見つけよう 2. アイマスク体験 3. 盲導犬の話を聞く 4. 高齢者体験 5. 車椅子体験（1時間） <p>肢体に不自由のある方の体験学習をするために、体育館にて、車椅子乗降による歩行体験を2クラスで行った。</p>
2 学期	事前まち歩き	<p><課題をつかむ></p> <p>モデル地区推進部会委員、社会福祉協議会、社会福祉事業団の方々から車椅子の基本的な操作方法や介助方法を学び、全員が疑似体験をした。また、視覚障害者の方から、お話を伺った。</p>

		その後、高齢者体験とアイマスクの体験をしながら、まち歩きのコースを5人くらいのグループで15組に分かれて歩いた。 そうした、擬似体験をすることで、本番のまち歩きをする際のインタビュー内容を考えた。(2.5時間)
--	--	--

(3) まち歩き (9/28)

2学期	まち歩き	<p>肢体・視覚・聴覚の障害当事者の方々と共に、仲本小学校周辺の住宅街から、再開発事業区域の新しいまちを対比しながら発見してもらおう。</p> <p>◎仲本小学校周辺のコース</p> <p>①仲本小～駅周辺、PARCOビル脇新道</p> <p>②仲本小～東仲町商店会、オアシス</p> <p>③仲本小～日の出通り上り・下り方面</p> <p>2クラス(80名)を15グループに分けて、障害当事者の方々と共に歩いた。また、各グループに当事者・地域関係者(自治会、民生委員、育成会、保護者)・市関係課職員が随行した。</p> <p>〈追求する〉</p> <p>インタビューする児童が、まち歩きで感じた良い点、悪い点、直してもらいたい点など予め質問を用意しておき、小学校に帰着後グループごとに、参加者全員で話し合った。</p> <p>今回、目標としていた地域ぐるみでのまとまりについて、地域関係者の高齢者や障害者の方々と少人数のグループで、濃密なコミュニケーションが図れ、日常生活での問題点などを観察したり課題を話し合うことができた。(2.5時間)</p>
-----	------	---

(4) 発表 (10/19)

2学期	発表会	<p>〈まとめる〉</p> <p>浦和コミュニティセンターにおいて、活動に参加した地域関係者・障害者の方々・保護者、行政の関係所管課等が参観する中、発表会が行われた。</p> <p>発表後、全体での質疑応答の時間を取り、発表した児童と参観者との間で、意見交換がされました。(1.5時間)</p>
-----	-----	---

3. 平成20年度 大宮小での取組について

大宮小学校では、5年生児童（80名）を対象に実施しました。

(1) 取組の概要

【参加者】

モデル地区推進部会員の他、肢体・視覚・聴覚の各障害者団体から選出された方、市関係課職員、社会福祉協議会、社会福祉事業団が参加し、まち歩き点検、発表会を行なった。特に地域の住民の方々にも参加を促し、まち歩き・発表会を行いました。

(2) 擬似体験 (12/17)

日程		内 容
1 学期	授業	<p><ふれる></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 車椅子、アイマスクの擬似体験 2. 自分の課題設定 擬似体験を通して、追求したい課題を設定する。
2 学期	授業	<p><追求する></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題、問題の追及 2. 児童が図書・インターネット等を使用して、追求したい課題に関する情報収集を行なった。 <p>◎障害者の方の生活を感じる講演、模擬体験 さいたま市視覚障害者協会の方から、家での日常生活や、外出時の不便さなどの話を聞いた。 その後、社会福祉協議会からアイマスク、白杖、車椅子を借用し、介助者及び社会福祉協議会の方の指導を受けながら、「ひろがる教室」に点字ブロックを設置し、町の中を再現して体験を行なった。 特に今回、アイマスクをつけた体験とともに、介助者の方からも指導をしていただき、交代しながら介助者の体験も同時に行なった。</p> <p>○視覚障害者が方向をつかむ為の点字ブロックの必要な意味、介助者の歩き方などを学んだ。</p> <p>○車椅子については、廊下や教室を迂回しながら、教室の段差や机などの障害物を置いたコースを、乗り手と介助者(一台に2～4名)を交代しながら、全員でどうやったら乗り手に不安を与えないような、介助ができるかを学んだ。</p>
12月17日	9:30 ～ 11:30	

○車いすの基本的な操作方法を学び、自分で動かすことと、車いすを押すことを学んだ。



(3) まち歩き (1 / 15)

日 程		内 容
3 学期	まち 歩き 9 : 30 ～ 12 : 00	<p>肢体・視覚・聴覚の各障害者の方々と共に、大宮小学校周辺の住宅街から、今後、再開発していく新しいまちの新旧を見ながら発見してもらおう。</p> <p>◎大宮小学校周辺のコース</p> <p>①大宮小～駅前交差点周辺 ②大宮小～天沼方面、公共施設 ③大宮小～大宮駅構内</p> <p>当事者（肢体・視覚・聴覚）の方々と共に、2クラスを18グループに分けて、目的地まで往復し児童の視点で捉えていく。 各グループに当事者・地域関係者、社会福祉協議会、市関係課職員などが随行了した。</p> <p><追求する></p> <p>小学校に帰着（11：00 頃）後、グループごとに参加者全員が発言し、話し合った。</p>

		<p>まち歩きで感じた点、直してもらいたい点などをグループで話し合うことで、そこから派生する話題などで参加者がさまざまな話を展開した。</p> <p>○見て、感じて体験することを共有し、課題を話し合うことができた。</p> <p>○地域関係者、高齢者、障害者、市関係課職員といったメンバーでグループを組み、少人数における交流の機会によりコミュニケーションが図れた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
--	--	--

(4) 発表(1 / 30)

3学期	発表 学 校 公開日	<p><まとめ> 「ひろがる教室」「家庭科室」において各グループの発表会を行った。</p> <p>地域関係者・まち歩きに参加した障害者・保護者・行政関連所管などが参観し、各グループの発表を一人ずつ発表することで、参観者が全体の発表を聞くことが出来、発表後、質疑応答の時間を取り、発表した生徒との意見交換が行われた。</p>
-----	------------------	---



4. 平成21年度 桜木小での取組について

桜木小学校では、5年生児童（65名）を対象に実施しました。

(1) オリエンテーション (9/15・18・25)

段階	活動	人	物	活動場所 (形態)
ふ れ る	(1時間) ○これからの活動について知る。 ○児童の知識や気持ちを聞く。	—	—	教室 (学年)
	(1時間) ○障害のある方の話を聞く。	視覚障害の方 (盲導犬)	—	多目的室 (学年)
	(2時間) ○妊婦、高齢者の話を聞く。	妊婦 高齢者	妊婦グッズ 重り	ワークショップ 多目的室 (学年)

(2) 体験を通じて課題を考える (9/28)

段階	活動	人	物	活動場所 (形態)
つ か む	(2時間) ○アイマスク体験 ○車椅子体験 ○分かったこと、感じたこ とをまとめる。	指導者	アイマスク： 17個 車椅子：17台 (体育館：模擬 道路を作る) ※ 点字ブロッ クなど	多目的室 運動場 階段体育館 (学級)

(3) 「共に生きる」ために (9/30・10/16)

段階	活動	人	物	活動場所 (形態)
追 求 す る ①	(1時間) ○障害のある方のお話	視覚障害者の方 (盲導犬) 妊婦 高齢者 聴覚障害の方 車椅子の方	—	多目的室 (学年)
	調べる(10時間) ○みんなが利用しやすいよ うになっているものを調 べる ○まちづくりの工夫 ○施設、住居の工夫など	—	—	—
	(3時間) ○実際に施設を訪れる 例) さいたま新都心	保護者	—	さいたま新都心 (学年)

(4) 自分たちが住んでいる場所について調べる (11/2)

段階	活動	人	物	活動場所 (形態)
追求する ②	(2時間) ○大宮駅西口 ○児童が調べる ○障害のある方と一緒にまちを歩いてみる	妊婦 高齢者 視覚障害の方 (盲導犬) 聴覚障害の方 車椅子の方 保護者	妊婦グッズ 重り アイマスク 車椅子	大宮駅西口 (学年) 保護者の協力 事前打合せ
	これからのまちづくりを考える (6時間) ○児童が自分たちで考える ○インタビュー (地域の方、保護者など) ○これらを受けて、「こんなまちにしたい」をまとめる ○ユニバーサルデザインを知る	—	—	—

(5) 発表 (1/26)

段階	活動	人	物	活動場所 (形態)
広げる	(2時間) ○児童の提案を聞いてもらう ○感想や参加された方の意見を伺う (4時間) 再検討し、報告 →桜木小学校の全校児童へ発信→市へ(学校の外への発信)	妊婦 高齢者 視覚障害の方 聴覚障害の方 車椅子の方 (盲導犬)	—	体育館 (学年) パネルディスカッション形式

Ⅲ. 参加者の声から

各小学校の取組みを通して、子どもたちは、持ち前の豊かな感性から様々なバリアに気づき、色々なアイデアを大人たちに発信してくれました。

また、そんな子どもたちと共に取組んだことで、私たち大人もたくさんを感じました。

子どもたちが、地域のお年寄りや保護者など地元の方々、障害当事者の方々と共に手を携えながら「まちあるき」をした際に、参加者の方々が、ハード面やソフト面のバリアに気づき感じたこと、また、子どもたちの発表会をご覧になった方々の声をまとめました。

モデル地区推進部会員、肢体・視覚・聴覚の各障害者団体から選出された方、社会福祉協議会、社会福祉事業団、市関係課職員のほか、PTAをはじめ地域の自治会、区民会議の方々も参加し、まち歩き、発表会を行った後、次のような意見が寄せられました。

(1) 子どもたち

- 目は不自由でも気持ちは同じだと思います。できないことだけ手伝って、できることは自分でするようにするのが良いということが分かりました。
- 「もしも、自分の身体が不自由だったら」と思って体験をしました。体育館は床が平らなので良かったけれど、道路は平らなところばかりではないので、どんなに悲しいか、どんなにくやしいか分かりました。周りの人の優しさが必要だと思いました。
- はじめは、耳が不自由なので話しにくいのではないかと心配しましたが、私も耳の不自由な方も、両方が気を配ったので話しやすかったです。やっぱり、どんな障害があっても、人間はつながっていると感じました。
- 今度、まちで車いすに乗っている人にあったら、手をかしてあげたり、段差で困っていたら、声をかけてあげたいです。
- これからは、誘導ブロックの上を歩いたり、物を置かないようにしたいです。
- これからは、障害者に親切に優しくして生きていきたいです。そうすれば、誰かが困っていたら「大丈夫ですか？」と聞ける、素敵なさいたま市ができるのではないかと思います。
- 私たちは、障害を持っている人たちやお年寄りの人がとても大変で、つらい思いをしていることにあらためて気づきました。これからは、私たちのできることは自分から進んでお手伝いしていきたいです。

- 今回、お年寄りや目の不自由な人、耳の不自由な人たちと一緒に歩いていただいたおかげで、自分たちがその人たちの手助けになるということに気づきました。これから、困っている人がいたら、積極的に声をかけて手助けしたいと思いました。
- 障害のある方をまちで見かけたら、特別な目で見ないで、困っていたら声をかけたい。
- 誰にでも相手の立場にたって考え、思いやりの気持をもって接することが、自分たちの住むまちを良いまちにしていく第一歩だと思う。
- 駅のホームから障害のある方などが落ちないように柵をつけるなど、設備を付けるのも大事だが、普段からそうした方々と挨拶を交わしたり、ふれあって優しくすることが大切だと思う。
- これからもよりよいまちづくりができるように、意識して生活していくようにしたい。
- 私たちも、だれもが住みよい福祉のまちづくりの手伝いをしたい。
- 車いすの方の生活の話を聞いて、まちで困っている人を見たらその人がしてほしいことを考え、やさしく手助けすることを交流して学びました。
- お年寄りの話を聞いて、まちでお年寄りに会ったら重い荷物を持ってあげることやバスの中で席を譲ること、危ない道にいたら付いて行ってあげる、やさしく接することなどを学びました。
- 妊婦さんの話を聞いて、障害物をどかしてあげることや、荷物を持ったり手助けしてあげること、電車の中で席を譲ることなどを学びました。まちでマタニティマークを見かけたら困っているときに助けてあげましょう。
- 耳の不自由な方の生活の話を聞いて、緊急連絡のときに代わって連絡をしてあげることや、その人の気持ちになって考えることを学びました。
- 目の不自由な方の生活の話を聞いて、たくさんの不便さがわかって、手助けしたいと思いました。目の見えない方が、諦めず、前向きに頑張っていることもわかりました。
- 私たちは、障害者の方やお年寄り、妊婦さんたちと交流して、苦労や不便なことを聞いて、どうにかしないといけないと思いました。そして、一番思ったことは、誰にでも思いやりの心で接することです。駅や道で困っている人を見かけたら、相手の気持ちを考えて、「どうしたのですか」とやさしく聞きます。いいまちにするためには、障害者の人たちの立場になって考えることです。
- 私は大宮で生まれて大宮で育ちましたが、今まで、住んでいるまちが不便とか危険とか感じませんでした。でも、この活動で世の中には色々な方がいて、そうい

う方にとっては不便なところがあるということを知りました。これからこのまちがいつそうよくなるように、この活動で学んだことを活かして、みんながよいと思うまちづくりをしたいと思います。私にできることも、毎日の生活の中で行っていきたいと思います。

○障害のない私たちにとって、このまちは普通に生活できる場所です。しかし、障害のある方や高齢者、妊婦さんにとっては、不便なところがあるということや、改善すべきところがあるということがよくわかりました。私は障害のある方を見かけたら、ただ助けるだけでなく、改善すべきところに一緒に取り組むことができると思います。また、わたしたちにできることを一つ一つ取り組んでいくこともできると思います。

○この活動を通して、一人一人の大切さを学びました。たくさんの体験談を通して、色々な問題点があることに気づかされました。そして、大きなことではなく、ぼくたちにできる小さな親切、思いやりこそ何よりも大切であることをあらためて知りました。これからの生活に活かしていきたいと思います。

○ぼくは、福祉のまちづくりを学ぶ前は、いったいなんだろうと思っていました。学んでみて、障害者など全ての方にとって使いやすいまちづくりだとわかりました。車椅子の経験をさせていただきました。お世話になった皆様、ありがとうございました。

○大宮には直したほうが良いところや危険なところがあることがわかりました。でも、私たちにできることのほうが多いことがわかりました。実行できることはやってみたいと思います。

○さいたま新都心にあった、電光掲示板、車いす用公衆電話、スロープ、広い道、有人案内、音声案内、車椅子やベビーカーの貸し出しなど大宮駅西口にも取り入れたい。

○道が壊れているところ、手すりのない階段、子どもの頭の位置に柱があるところがある。

○「福祉のまちあるき」をして、途中で誘導が終わっている点字ブロックや道の段差が結構あるので、人が多く行き来する駅にボランティアの人を配置したらいいと思う。

○交差点の信号機で流れる音声は「カッコー」や「ピヨピヨ」と全国まちまちなので、障害のある方が安心して渡れるように、方向によって統一をすべきだと思う。

○障害のある方や妊婦さんは、今のまちを歩くのはとても疲れるので、休憩室を設けてほしい。

(2) 各学校の保護者の方

- 子どもたちにとっては、目の不自由な人にどうやって言葉を伝えるか、一緒に歩いたり、階段を知らせたり・・・難しかったと思います。目の不自由な人に接する、貴重な勉強の機会になりました。
普段気付かない点字ブロックや信号のない横断歩道を発見したり、電車の音にかき消されてしまい周りの音が聞き取れないことに気付いたりしてなかなか体験できないことを感じる、いい時間でした。何よりお手伝いとして参加した大人の私がいい勉強をさせていただきました。
- 子どもの目線で細かいところによく気がついていました。このような活動を通して今まで見過ごしていた事柄に興味を持つきっかけになったと思います。
- 学習経過の一部を見せていただき、子どもたちが素直に伸びる力や教育の働きかけの力の大きさを目の前で感じた。また、幅広い地域の人々がともに学ぶ姿勢も直に感じ取れた。自分自身にとっても充実した学習ができた。
- 今日のような体験を数多くの人にしていきたい。子どもだけでなく、大人のマナーの向上にもつながり、日々の生活にも活かれます。
- 大宮駅西口は開発が進みきれいになった様でもありますが、お年寄り、ベビーカーの赤ちゃん連れのお母さん、障害のある方々の視点を持って歩いてみると、危ない場所もかなりあり、不親切な所も多々あったようです。弱者といわれる人々が安心して暮らせるまちづくりを皆で目指していきたいと思います（ソフト面も含め）。
- 環境整備など、すぐ改善できないが、マナー違反（ゴミ、自転車など）、今から取り組めたらと思いました。
- 大宮は大きい街で便利だと思っていたが、目の不自由な方と一緒に歩くと、とても利用しづらい点が多く見えた。点字の少なさ、音声案内の少なさ、点字ブロックも不親切に思えた。健康な方なら何も問題ないと思うが、バリアフリーな街にしてほしい。
- 前回、新都心駅を子どもたちと歩いたが、大宮駅の方が古いから比較するととても不親切な街に見えた。点字ブロックの整備、案内などできるものから少しずつ改善してもらえるとよいです。エレベーター、エスカレーターなどがあると便利ですが。
- はじめて車いすを押してみてもスロープなど重く大変な様子でした。細かい所もよく見ていました。
- 道が壊れていてつまずいてしまうと思う場所や点字ブロックがちゃんとしていない所などがありました。バス停など、階段の下が近くなっていて頭などぶつけてしまいそうな場所がありました。

- バスに乗るとき階段を利用しなくてはならない点とか不自由な所がたくさんあるが、問題点とされているので、早く実現させてほしい。

以前は、駅のコンコースからバス乗場へ行くには、階段を下りる方法しかありませんでしたが、平成22年8月より、エレベーターが設置され、安全に移動できるようになりました。

大宮駅西口バス乗場



- 視覚障害のある方と一緒に歩いたのですが、その視点でまちを眺めると「不親切なまちだよね…」、「いいところないじゃないの…」との声が上がっていました。

- この学習が、先生以外の方々にも、お世話になって、この発表までこぎつけたことに感謝したい。今後も続けられたらうれしい。

(3) 地域の方

- 児童が自治会や区民会議などの色々な団体の人々と一緒にまちに出る体験は大きな意義があると思います。今後も継続されますよう期待します。〔自治会・区民会議〕
- 高砂小のみでなく各学校でも実施されることを望みます。なお、研究発表のみでなく今後の生活面でも続けてくれることを望みます。〔自治会〕
- 知的障害の人たちを理解し、やさしくしようと思ってくれていることがよく伝わり、うれしく思いました。特に「これからまちで見かけたら、特別な目で見ないで困っていたら声をかけたいと思います。」と言ってくれた子どもの目の輝きに、救われた思いでした。私のほうがとても勉強になりました。〔障害者団体〕
- 普段の生活では気づいていなかった部分もあり、障害のある方とのコミュニケーションが壁であることは前々からの問題でした。今後どうしていくべきか、私たちが一緒に考えていく姿勢が大切ではないでしょうか。〔障害者団体〕
- 障害のある方の意見を聞かせていただきながらのまちあるきでした。日常生活で

は不自由なく感じていたものが、目の不自由な方や車いすの方にとってはかなり暮らしづらいというまちづくりであるということがわかりました。〔自治会〕

- 想像を上回る設備状況の悪さでした。人的な部分は今日確認できませんでしたが、マナーの啓発等が必要と思われます。〔区民会議〕

大宮駅西口タクシー乗場の段差

- 西口を出たペDESTリアンデッキの上の点字ブロックの連続性のなさ、特に階段の所に何の誘導ブロックもなく危険。ジャックへの通り、ジョイント部分のボルトが外れていて危険。桜木2丁目、電線地中化した側道の変電ポストが歩きにくい。まちの中に案内表示が不足している。〔区民会議〕



以前は道路とタクシー乗場との間に段差があり危険でした。

- 道路整備（工事）の途中だと思えますが、桜木小学校前の信号の所は電柱が中央にあり車いすの方や視覚障害の方にとって危険ではないかと思いました。〔自治会〕

- 何の気なしに歩いている時と違い、こんなに不親切な街や道路だったのかと驚きました。心配りをもっとしてほしいと痛感いたしました。〔自治会〕

- スクランブル交差点の歩行者用時間をもう少し長めにしていきたい。〔自治会〕

- 自転車の指導（駐車・乗り方）をもっと厳しくしていきたい。〔自治会〕

- 手すりには物件等を取り付けないように（路上喫煙看板）。〔区民会議〕

- 公共施設はよく整備されていると思われたが、道路が人と自転車の区別がない点、危ないと思いました。〔自治会〕

- 車いすを押していただきましたが、児童が「少しの段差でもずいぶん大変なんだ。」と話していました。一生懸命やっていただきましたので、大人になっても介護の苦勞がわかると思います。〔障害者団体〕

- 放置自転車が視覚障害者にとって危険であるとの気づきがあった。〔区民会議〕

- よく調べ勉強をし、交流を通して学んでいた。とてもよい発表会で、私自身も再発見や気づきも多く、とても考えさせられた。

人にとって何が大切かを考え理解した子どもたちの姿に感動した。今年の発表を聞いて本当に感動しました。〔障害者団体〕

- この企画はかなり子どもたちや大人にとっても得るものは大きいと思われます。具体的に小さく目的を絞り、今後もぜひ続けていただきたいと思っています。〔自治会〕
- 児童のこれからにとってもよい経験になると思いますので、長く続けてもらいたいです。〔障害者団体〕
- 内容もすばらしかったが、子どもたちの、まじめに考える姿勢やプレゼンテーションのうまさもすばらしいと思いました。先生方のご指導も生きていたものと思われます。
皆さん、細かいところまでよく見ていると思いました。また、「ちょっとの心遣いで……」という言葉が印象的でした。〔区民会議〕
- 点字ブロックが大切なことがわかりました。エレベーターの表示が店の看板などで見えないこと、音声のアナウンスがあると良いこと、など発表していましたが、賛成です。〔自治会〕
- 子どもたちが思いやりの心を大切にすること、ここまで考えていることが、頼もしく思えました。〔障害者団体〕

(4) 各学校の先生方

- 視覚障害があり、かつ、足も弱い方がカートを持参し参加していた方がいました。子供たちと一緒に「まち歩き体験」することを楽しみにしていたらしく、普段は、何処に出かけるも、タクシーを利用していたが、今回は子どもたちと歩いてみようと思われます。本人いわく、5分ともたないかと思ってスタートしたが、子供たちとのふれあいが楽しかったらしく完走されていました。世代間交流・地域との繋がりが生まれた瞬間を目の当たりにした一日でした。
- 子どもたちの中に「みんなが生活しやすいまちはどんなまちだろう」という考えが芽生えたことが成果だと思われます。
- 一番の成果は、子どもたちだけでなく「保護者も参加」し、共に学び合えたこと。
- 普段まちを歩いたり、買い物をする時など、車椅子や段差などに気付かなかったが、子どもも保護者もそうしたことに意識や視線が向くようになったのを感じている。今後は、校内の他学年にもアピールしたり、今回のように、いろいろな方々から生の声を伺い直接関わりを持つ場を持ち、学びあいの中から思いやりの心を育てていきたいと思われます。

(5) 部会委員・市関係課など

- いろいろなところで気がついてメモをしていましたが、学校に戻ってから、「どこに話したら、改善してもらえるのですか？」と話しているお子さんがいました。気づくだけでなく直したりする先のことを考えることが進歩だと思いました。
〔部会委員〕
- 歩道上に店の看板や自転車などがあり、交通弱者にとって利用しづらい歩道であることを改めて理解しました。〔市関係課〕
- 児童は障害者に対して自然な見方をされていてよかった。支えることを日常、学校教育や家庭などで自然と学んでいることを感じた。〔部会委員〕
- 普段、何気なく利用している大宮駅でも福祉のまちづくりの視点から見ると、しっかり対応している点や問題点など、今まで気がつかなかったことが見えてきた。
〔市関係課〕
- 他のグループと合同で体の不自由な方、お年寄りの方、耳の不自由な方の意見交換の場となった。子どもたちが同じ時間を共有してくれたことが何よりだった。
〔部会委員〕
- 大宮駅は広く、至る所に点字があったりしてよいと思うが、ちょっとした段差等、車いすの方やお年寄りには使いづらい所も多く見受けられました。歩道は広くなっていてよかったです。〔部会委員〕
- 視覚障害者は音を頼りにしているが、駅構内の音声は雑音（人の声）で聞こえない。点字ブロックはあるがそこにたどり着くには支える人が必要。案内板に点字はあるが、それを探すまでが大変、など学びました。〔部会委員〕
- 福祉のまちづくりという、児童にとってはあまりなじみのないテーマだと思っていたが、まちあるきが始めると積極的に写真を撮ったり、児童同士で話し合ったりする姿が印象的で、福祉のまちづくりに対する意識の向上につながったと思う。
〔市関係課〕
- 子どもたちは、障害者や高齢者の手助けになりたいといっていました。本当に良い学習をしたと思います。
高齢者や障害者の立場に立ち、良い点、悪い点を自分たちで分析していたことについて、大人にもしっかりと伝わったと思います。また、自分たちに何ができるのか、どう意識するべきか、考えた点について、今後の生活に活かしてほしいと感じました。〔市関係課〕
- 子どもの目線で細かいところによく気がついていたと思います。このような活動を通して今まで見過ごしていた事柄に興味を持つきっかけになったと思います。子どもたちが立派な言葉で発表できていて感心しました。今回感じたことや気づいたことを実生活に活かしてほしいです。

障害者や高齢者を例にしたスタンプとして発表した班がわかりやすかった。どんな形式の発表でも、全員が真剣に取り組んでいた。発表内容を見て、児童の努力が表れていたと思う。芝居だったり、写真で説明したり、わかりやすいし、一人一人が福祉のまちづくりについてしっかり考えていた。障害のある人が困っていたらどうやって助けてあげるか発表していた班もあった。ぜひ、実社会で実践してほしい。〔市関係課〕

- 交流してわかったことの発表で、「障害者の立場に立って生活していこうと思います」や、「思いやりの心をもっていこうと思います」などの言葉が印象に残りました。苦労していることやしてもらいたいことなどの細かい発表もあり、障害者の方への理解が参加している皆さんに伝わったと思います。〔部会委員〕
- 心を育てる学習で、家庭ではなかなかできないことを行っていて、すばらしい学習だと思いました。〔部会委員〕
- さいたま新都心のタクシー乗り場では、乗り口が決まっているのに降り口が一定でない、と発表していましたが、改善が必要と感じました。〔市関係課〕
- 音声信号機の規格の統一が必要と感じました。〔市関係課〕
- 「ピヨピヨ」や「カッコウ」の音が全国で統一されていないと聞き驚いた。「まちを良くするためには、日々の生活を意識して過ごすことが大切」と話していたことが印象的でした。ハード面よりソフト面が大事ということが小学生に伝わったような気がした。〔市関係団体〕
- まちあるきをした結果、点字ブロックのない場所や危険な場所があることをわかりやすく発表していました。目の不自由な方やお年寄りを見かけたら優しくしてくださいという言葉が印象的でした。バリアフリーでない場所を見るとその箇所を改善していくことを考えるが、手助けするなどすぐにでもできることがなかなかできないという点を見直すことも大切だと感じた。障害者の立場になって考えていたところがすばらしいと思った。〔市関係課〕
- 「福祉のまちあるき」を今後も続けてほしい。児童が勉強だけでなく社会性を身につける良い機会だと思う。子どもたちのハード面、ソフト面における「まちを良くしよう」という意気込みが十分伝わった発表会だった。一人一人ができることをやれる範囲で取り組もうという姿勢が大切。これからも引き続きこうした気持ちを持っていていただけるよう、継続した学習の機会を設けたい。〔市関係団体〕
- 数ヶ月に及ぶ長い経過の学習であり、学校の先生方や協力して下さった方々のご苦労も多かったことと思うが、多様な人々の参加で多くのことを学べたので、ぜひ来年度以降も続けていただけるといいと思う。市の職員として、少しずつでも各地域の福祉的發展に貢献していきたい。〔市関係課〕
- 一段一段行っていくことでよいと思います。私たち老人としても、学ぶところがあります。〔部会委員〕

- 「大人の学び」という視点をしっかり踏まえたモデル地区での取り組みにできるよう推進していければと思う。「学校」と「地域」、両面での学びを展開できればよりよい取り組みへとステップアップできると思う。〔市関係団体〕

- 子どもたちが気づいた改善点をはやく改善していただけたらと思う。やりがいがあったと感じられたらいい。
1日や短期間、短時間の福祉教育（学習）ではなく、通年での学びが今回のような大きな学びや気づきにつながるのではないかと思いました。小学5年生は、思った以上にしっかりしていて大人の考えを持っているのだと感心しました。
〔市関係団体〕

- この事業を最初からみると、4年間でたちますので、中学生になっている子どもたちに会いたい気がしました。〔部会委員〕



IV. 桜木小6年生へのアンケート結果と考察（平成22年度調査）

5年生の時（平成21年度）に授業を受けた児童59名を対象に、平成23年3月にアンケートを実施したところ、配布した全員から回答をいただきました。

Q1.

5年生の「総合学習」の授業の中で車椅子の操作をしたり、アイマスクをして障害者の方の生活を体験したり、障害者の方のお話を聞いたり、障害者の方々と大宮駅周辺のまちあるき点検をしたりして、障害者の方との交流や体験で感じたことや学んだことを発表したことを覚えていますか？

該当する数字を「○」で囲んでください。

1. 覚えている（37名）
2. 少し覚えている（22名）
3. 覚えていない（0名）

※子どもたちに本学習を覚えているか質問すると、全ての子どもたちが何らかの形で覚えていると回答しました。

Q2-1

第1問目の質問で、覚えている又は少し覚えているを選んだ方はどんなことが特に印象に残っていますか？（良かったことや生活に生かされたことなど自由に書いてください。）

- 車椅子で生活するのは大変だと思ったこと
- 車椅子に乗ったとき、段差に乗ったら車椅子がとても揺れて怖かったこと
- 生活の中で困ってしまう場面や不自由なことが多いこと
- 身边には危険なことがたくさんあったこと
- アイマスクで目の不自由な人の怖さが分かったこと
- まち歩き点検でどんなところが不便か分かったこと
- 誰にでも困った人に親切にしようと思ったこと
- 障害者の方の手伝いができたこと
- みんなの前で写真などを使って発表したこと
- みんなの発表を聞いて身の回りのことを知ったこと
- 障害者の方が困っていたら、助けてあげようという気持ちが大切だということ
- 大宮駅を歩き、体育館で車椅子体験と発表をしたこと
- 障害者のためのマークを調べたこと

- バスなどにしてある工夫を知ったこと
- 体の不自由な方の話を聞いたこと
- 盲導犬や点字について
- 点字ブロックに杖が引っかかって転びそうになったこと
- 自分の周りにたくさんのバリアがあったこと
- 大宮駅周辺に点字ブロック、バリアフリーのところ（スロープ、低い位置にある公衆電話）がたくさんあったこと
- 障害者の方は、毎日こんな生活をしていることにびっくりしたこと など

Q 2-2

その授業の内容について、家族や親戚、友人、地域の方と話し合いをしたことはありますか？ 該当する数字を「○」で囲んでください。

1. 話し合ったことがある（32名） 2. 話し合ったことはない（27名）

※子どもたちの経験や気づきを他の人に伝えられているかどうか質問すると、話し合ったことがある子32名（54.24%）、話し合ったことがない子27名（45.76%）と半分以上の子どもたちが自分で経験したことや気づいたことなどを他の人に伝えているという結果となりました。

Q 3

第1問目の質問で、覚えていないを選んだ方は、どうしてですか？理由を書いてください。

（該当者なし）

Q 4

その時の体験や学んだことをその後の生活の中で持続して今でも行っていることがあったら自由に書いてください。

- 道や点字ブロックなどに自転車を置かないようにしている（22名）
- 点字ブロックを踏まないように歩いている（10名）
- 決まったところに自転車を置くようにしている（4名）
- 電車でお年寄りや障害者の方、小さな子どもたちに席をゆずる（6名）
- 困っている人になるべく声をかけるようにしている（4名）
- 障害者が道を通るときには道をあけるようにしている
- 家族と大宮のまちについて話すようになった

- ごみ拾い
- 荷物を持ってあげる
- エレベーターをゆずるようにしている
- 道路が狭くなっているところは、1列で歩くようにしている
- 家族で障害やまちづくりについて話をしています
- 町を歩きながら母と危ないところを話し合ったりする
- どこに点字があるのか、音の出る信号がどこにあるのか調べる など

※子どもたちが経験したことや気づきをそれ以後の自分の生活の中で継続して行っているか質問すると、特に多かった回答として、点字ブロック上に自転車を停めないが22名、点字ブロックを踏まないようにしているが10名、決まったところに自転車を置くようにしているが4名おり、点字ブロックや放置自転車について注意している子が多いことがわかりました。

また、お年寄りなどに席をゆずるが6名、困っている人に声をかけるようにしているが4名など他人に対して具体的な行動を起こしている子もいることがわかりました。

しかし、未記入の子が4名、特に行っていないと答えた子が2名おり、そのうち5名は質問の2-2において話し合ったことがないと回答した子でした。

Q5

授業を覚えている方で、学習した以外のことでやってみたかったことがあれば自由に書いてください。

- 手話の勉強（19名）
- 点字の勉強（17名）
- バリアフリーマップを作りたかった（5名）
- ボランティア活動
- 点字ブロックの種類
- 街の中をアイマスクをして歩く
- 障害者の生活を2時間ぐらいしてみる
- 工夫された文房具をさわってみたかった
- バリアフリーの設計図を描いたりすること
- おうちの人たちに自分たちがこうしたらいいと思うことを発表

※子どもたちが、行った授業の内容以外にどんなことに興味があったのか質問すると、多い回答として、手話の勉強が19名、点字の勉強が17名、バリアフリーマップ作りが5名など、子どもたちの関心が非常に高く、福祉の学習に積極的に取り組んでいきたいと考えていることがわかりました。

しかし、未記入の者が8名、意見が無い者が2名おり、そのうち8名は質問の2-2において話し合ったことがないと回答した子でした。

Q 6

その後、町の中で障害者の方にとって危ない所や大変そうな所を発見した事があれば具体的に書いてください。（大宮駅周辺以外でも可）

＜子どもたちが危険だと思った箇所＞

- そごうの南側の道路が狭くでこぼこである（5名）
- ソニック横の道路で歩道と点字ブロックの色が同じだった（3名）
- 大宮駅のバス停に点字ブロックがなく行きにくい（3名）
- 鐘塚公園の点字ブロックが欠けていた（3名）
- 大宮駅の周辺で点字ブロックの先に電信柱があるところがある（2名）
- シーノの入口に階段しかない場所があった
- 大宮駅近くのスクランブル交差点点字ブロックがない
- 大宮駅の近くに放置自転車がたくさんある
- 大宮駅と南浦和駅の近くで点字ブロックが壊れていた
- 大宮駅の音声版が奥にあるので、わかりやすいところにあるとよい
- 学校近くの道の下水道の蓋がないところがある
- 大宮駅の外の中央階段が欠けているところがある
- 信号がない道（交差点、横断歩道）がある
- 駅にエレベーターやスロープが少ない
- エレベーターのボタンが高い位置にあるものが多い

※学習を終えた子どもたちの意識・関心がどう変化するか質問すると、危険な箇所として、そごう南側の道路、駅のバス停乗り場、鐘塚公園の点字ブロック、ソニック周辺の道路及び点字ブロックなど、何らかの回答をしている子が49名（83.05%）おり、子供たちはバリアフリーについて常に関心を持っているということがわかりました。

しかし、未記入の者が6名、意見が無い者が4名おり、そのうち8名は質問の2-2において話し合ったことがないと回答した者でした。



V. 第1期モデル地区推進事業の評価と今後の課題

第1期のモデル地区推進部会は、従来のバリアフリーから一歩進め、ユニバーサルデザインの考え方を基本とした「まち歩きによる点検」などを実施し、事業の対象となる施設などの課題や問題点を把握し、施設等所管課に対して改善を申し入れてまいりました。

＜改善を申し入れて対策が講じられた主なもの＞

- ⇒大宮駅西口バス乗場へのエレベーター設置
- ⇒大宮駅西口タクシー乗場段差解消 等

市が取り組んでいる事業については、行政自ら課題を洗い出し、改善することが必要です。

しかしながら、福祉のまちづくりは利用者の立場に立って推進することが重要であるため、ユニバーサルデザインの視点から、行政だけでなく、市民参加による評価も加えるなどの手法を取り入れることが大切です。

行政や交通事業者だけでなく、福祉関係団体や自治会等が参加したモデル地区推進部会の果たすべき役割は大きく、第2期モデル地区推進部会では、これまでの取組結果を、個々の事業の改善にとどめることなく他の事業の改善にも活かし、市の福祉のまちづくり施策全体に多面的な波及効果を生み出すことが重要となります。

＜ソフト面から見た福祉のまちづくりの現状と課題＞

- ⇒福祉のまちづくりでは、ハード整備だけでは行き届かない部分をソフト面で対応することにより補っていくことも重要です。それは、困っている人達に対する優しい心遣いや配慮です。歩道に自転車を放置しない、障害者用の駐車スペースに健常者が駐車しないなど、他者を思いやる心を育むことが必要です。
- ⇒福祉のまちづくりへの理解を深め、まちの中で困っている人に自然と手助けができる社会を築くためには、「学校などの教育場面で、バリアを理解し体験する機会を設ける」など、高齢者や障害者などバリアを有する方への理解と優しい心の醸成に取り組んでいく必要があります。

＜ハード面から見た福祉のまちづくりの現状と課題＞

- ⇒高齢者や障害者をはじめ、妊産婦や怪我をした人など、すべての人が自由に活動するためには、段差の解消のみならず、みんなのトイレやエレベーターの設置などが求められます。
- ⇒だれもが住みよい福祉のまちづくり条例制定以降、公共施設や交通機関などのバリアフリー化は着実に進んでいます。しかしながら、福祉のまちづくりをより一層推進するためには、この取組の継続が必要であり、今後は、個々の施設等の整備に止まらず、地域における連続的・一体的な整備が重要となります。

VI. 用語解説

さいたま市だれもが住みよい福祉のまちづくり条例

建築物、小規模建築物、道路、公園、公共交通機関等の施設を設置する際の整備基準を定めるとともに、福祉のまちづくりに関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本となる「福祉のまちづくり推進指針」の策定や、福祉のまちづくりの推進に関する基本事項を審議する「福祉のまちづくり推進協議会」の運営を位置づけています。

さいたま市福祉のまちづくり推進指針

福祉のまちづくり条例第7条に規定されている福祉のまちづくりに関する施策を、総合的かつ計画的に推進するための基本となる指針であり、これまでのハード整備に併せて、ソフト面の充実にも力点が置かれ、施設整備の考え方も点から面へとより質の高いユニバーサルデザインの都市づくりをめざして策定されました。

ユニバーサルデザイン推進基本指針との違いは、福祉のまちづくり推進指針が、福祉のまちづくりに関する施策を中心として、市、事業者及び市民が主体となって取り組むための指標であるのに対して、ユニバーサルデザイン推進基本指針は、高齢者、障害者等を含めすべての人を対象として、市が各分野で事業を実施する際のユニバーサルデザインの基本的な考え方や取り組むべき方向性を示すものであることです。

さいたま市福祉のまちづくり推進協議会

福祉のまちづくり条例第30条により、福祉のまちづくりに関する基本的事項を調査審議するために設置され、学識経験者、事業者の代表、関係団体の代表者、市民代表者、関係行政機関の職員、市職員等30人以内で構成されています。

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律

「ユニバーサルデザイン政策大綱」の施策の一つである「一体的・総合的なバリアフリーの促進」のため、ハートビル法と交通バリアフリー法を統合・拡充した形で制定され、内容としては、ハートビル法と交通バリアフリー法では、「高齢者、身体障害者等」を対象としていたのに対して、新法では、「高齢者、障害者等」と身体のみならず、知的、

精神等すべての障害者を対象としており、また、公共交通事業者等に加えて、道路管理者・路外駐車場管理者等・公園管理者等を規定しているなど、一体化に伴い、いずれの法律にも対象とされていなかったものを新たに取り組んだり、すでに取り組みれていたものの義務の内容が拡充された内容となっています。

＊バリアフリーとは、障害を持つ人々が、生活環境(住宅、地域施設、交通施設)において、普通に生活することを阻んでいる障壁(バリア)をなくすこと。1974年、国連専門家会議報告書『バリアフリーデザイン』が出版された当初から、物理的バリアフリーのみならず、心理的、社会的バリアフリーの重要性は指摘されていた。

さいたま市誰もが共に暮らすための障害者の権利の擁護等に関する条例

いわゆるノーマライゼーション条例と呼ばれるもので障害の有無にかかわらず、等しく市民として個人の尊厳と権利を尊重し、障害のある人の権利を守り、自立及び社会参加を支援する仕組みを作り、市民だれもが地域社会の一員として日常生活を送るとともにあらゆる分野の活動に参加する機会を得られるよう地域づくりを行うことを目的に平成23年4月より施行されました。

＊ノーマライゼーションとは1960年代に北欧諸国から始まった社会福祉をめぐる社会理念の一つ。障害者と健常者とは、お互いが特別に区別されることなく、社会生活を共にするのが正常なことであり、本来の望ましい姿であるとする考え方。またそれに向けた運動や施策なども含まれる。



発 行

〒330-9588

さいたま市浦和区常盤6-4-4

さいたま市保健福祉局福祉部福祉総務課

電 話 048-829-1254

FAX 048-829-1961